

力作ぞろいに芸術の秋を満喫

第59回都城市美術展覧会

都城市美術展覧会が9月14日から30日の会期で開催されました。会場の都城市立美術館には、絵画や写真、書、工芸の4部門で入選した381作品を展示。15日には観賞会が行われ、来場者らは、実行委員による各受賞作品の解説や、自分が出展した作品の講評などを熱心に聞いていました。大崩山の紅葉を描いた作品を出展した梯雪子さん（梅北町）は「市美展は、市民の皆さんに作品を見てもらえるいい機会。自分の作品の評価も聞くことができて参考になった」と話していました。



アイデア光る作品ずらり！

都北地区学校創意工夫作品展

子どもたちが、夏休みに知恵を絞って作った作品を集めた都北地区学校創意工夫作品展が、9月15日から17日までウエルネス交流プラザで開催されました。今年は、小・中学校の児童、生徒が709点の作品を出展。入選した海田琴音さん（大王小6年）の「ちょうちよの灯ろう」は、薄い木を使ったランプシェードの内側に、チョウや花の絵を貼り付け、光が点滅するたびに影絵が楽しめる作品。家族旅行先で見たものを参考にした作品に「夏の楽しい思い出です」とうれしそうに話していました。



メダリストのかかしたち

かかしフェスティバル

秋を彩るかかしフェスティバルが9月22日から10月5日まで、一堂ヶ丘公園で行われました。趣向を凝らして製作されたかかし37体を展示。グランプリに輝いた作品は、ロンドンオリンピックのメダリストたちが凱旋パレードする様子を再現したもの。取っ手を引くと人形が動いたり、ペダルを踏むとシャボン玉が飛び出したりする仕掛けに、来場者らは驚いていました。酒瀬川宗晟君（山田町山田・6歳）は「シャボン玉が出てくるところがおもしろい」と仕掛けを動かして楽しんでいました。



かわいいキッズイレブンに大声援

都城地区サッカーフェスティバル

9月23日、母智丘関之尾公園多目的広場でサッカーフェスティバルが開催されました。31回目となる大会に、未就学児からシニアまでの約500人が出場。年代別に分かれて、交流試合を楽しみました。かわいらしい姿でピッチに立ったキッズ選手らも元氣いっぱい走り回り、応援に駆け付けた家族らの声援を受けながらゴールを目指していました。五十市FCの名和田我空君（6歳）は「たくさん点が取れてうれしかった。将来はプロになってテレビに出たい」と夢を膨らませていました。



旧家で過ごす緩やかなひととき 重陽の節句と後のひな

9月8日から30日まで旧後藤家商家交流資料館で、重陽の節句に合わせた「後のひな展」が開催されました。中秋の名月を楽しもうと30日には、観月の茶会を開催。台風の影響で満月を望むことはできませんでしたが、それでも来場者らは、明治後期に建てられたロマンあふれる館内で、展示されたひな飾りを眺めたり、煎茶や抹茶などを楽しんだりしていました。串間シヅエさん（大王町）は「いい雰囲気の中でお茶をたてることができた。皆さんの笑顔がうれしかった」と目を細めていました。



最後の一手まで息詰まる熱戦 女流王将戦第1局

10月6日、霧島フアクトリーガーデン内の吉助で、女流王将戦第1局が行われ、里美香奈女流王将に中村真梨花女流二段が挑みました。同ガーデン内では畠山鎮七段が、棋士の対局中の一風変わった癖やこだわりなどをユーモラスに大盤解説し、集まったファンの笑いを誘っていました。盤上では、中盤から勝負手を連発した先手の中村二段が69手で先勝。中村二段は「最後の最後まで分らない対局だった。次回も力を尽くして頑張りたい」と次の戦いへの意気込みを見せていました。



秋空の下、おいしいお肉に舌鼓 都城焼肉カーニバル

日本一の肉のまち都城をPRしようとは始まった都城焼肉カーニバルが10月6日、観音池公園で開催されました。2,500席のテールが準備された会場には、家族連れや職場のグループなど約2万人が来場。炭火コンロで県内産の牛や豚、鶏を焼いて食べながら吹奏楽やダンスなどのステージイベントを楽しんでいました。毎年訪れている日野篤義さん（郡元町）は「今年も、社員の労をねぎらうために来た。地元産の肉を食べて元気に頑張りたい」と社員との交流を楽しんでいました。



文化の秋に見聞を広める 特別企画展「都城と琉球王国」

都城島津伝承館の特別企画展「都城と琉球王国」が、10月7日から11月29日まで開催されています。琉球の王族尚家が愛用した王冠や色鮮やかな紅型衣裳などの国宝のほか、都城と琉球王国の歴史的つながりを記録した史料を展示。来館者らは、展示物を見学したり、都城歴史観光ガイドの説明を受けたりして、見聞を広めていました。ガイドの永山実男さん（都原町）は「沖縄県でも普段、展示されない貴重なものばかり。ぜひ、会場に足を運んでほしい」と企画展の魅力を話していました。





b j リーグ

宮崎シャイニングサンズ

キャプテン

小島 佑太^{ゆうた}さん



県 内初のプロバスケットボールチームの宮崎シャイニングサンズ。チーム設立から3年目を迎えた今シーズン、2代目キャプテンを務め、活躍が期待されるのが小島佑太選手（東町・29歳）です。

小島選手は、栃木県宇都宮市の出身。小学生からバスケットを始め、栃木県内でも負け知らずのチームに所属していた小島選手は、中学・高校へと進むにつれ、バスケットのとりこになりました。大学卒業後は、2つのプロバスケットボールチームを経験し、サンズ設立と同時に入団しました。

今シーズンのサンズは、小島選手を除いて、全ての選手とスタッフが入れ替わった新しいチーム。4人の外国人選手もアジアでの経験はあるものの、日本でのプレーは初めて。そんなチームの中で、これまで経験したことのないキャプテンの大役を務めることとなった小島選手は「チームをまとめるというよりは、一生懸命な姿を見せてみんなを引っ張って行きたい」と意気込みを見せます。

昨シーズンは、足首のけがから、2カ月間試合に出場することができなかった小島選手。その経験から、シーズン52試合を戦い抜くためには、技術面はもちろん、当たり前負けしない体力が必要と練習に熱が入ります。

今シーズンの目標は、東西両リーグの勝者を決めるプレーオフ進出。「市民の皆さんには、試合以外にもハーフタイムでのダンスやマイクパフォーマンスなど魅力満載の試合会場に足を運んでもらい、サンズを応援してほしい」と話していました。

10月13日の開幕戦では、チーム一丸となって、滋賀レイクスターズから勝利を勝ち取りました。プレーオフ進出を目指して、頑張れサンズ！ ゴーゴーサンズ！

環霧島探訪

— かんきりしたたんぼう —

Vol.7

今月は、えびの産鹿革ブランドの確立を目指す下牟田盛利さんを紹介します。

◎問い合わせ えびの市企画課 ☎0984-351111



鹿革を使った新たなビジネスに挑戦中の
下牟田 盛利さん

鹿による自然や農作物への被害は、環霧島地域でも大きな問題になっています。えびの市の鹿協会では、こうした鹿被害の防止対策を行っているほか、捕獲した鹿の有効活用を図っています。この協会で会長を務める下牟田さんは、農商工が連携した新たなアグリビジネスの創出や、地域の活性化を目指した活動を行っています。

協会では、法令に基づき駆除した鹿を有効活用できないかと、昨年5月から本格的に鹿革製品の販売を始めました。取り扱う製品は、財布や小物入れ、バッグ、ジャンパーなどさまざま。「鹿革は、丈夫で温かく、長持ちします。希望があれば、お好みの製品を作り出すよ」と話す下牟田さん。

えびの市猟友会の駆除班員がかななどで捕獲した鹿を、鹿協会の会員が肉と皮に分け、県外の業者に委託して皮をなめしてもらっています。製品は、会員の手作り。「一つのものを作るのに時間はかかりますが、その分、気持ちを込めています」と手作りへのこだわりを話す下牟田さん。今後は、「革のなめしから製品加工まで一貫して行えるよう、環境整備をしていきたい」と意気込みを見せています。

最近では全国から製品の問い合わせがあります。

鹿革製品は、えびの市役所近くの販売所のほか、真幸駅や白鳥温泉、えびの市鹿協会のインターネットサイトでも購入できます。ぜひご覧ください。

※環霧島圏域のイベント情報を、市ホームページで紹介しています



盆地生まれの

元気ないただきます



簡単！煮るだけ大根料理

かわり五目煮

※1人分183kcal、塩分1.6g



●材料(4人分)

鶏もも肉(皮なし)…300g 大根…200g ニンジン…100g
里芋…100g こんにゃく…150g ショウガ…10g ネギ…5g
水…300cc サラダ油…大さじ1

[A] 砂糖…大さじ1 みそ…40g
酒…大さじ1 濃口しょうゆ…大さじ1/2

●下準備 こんにゃく…食べやすい大きさに切りさつとゆでる
野菜、鶏肉…一口大に切る

●作り方 ①鍋に油を熱し、みじん切りのショウガと鶏肉を炒め、大根、ニンジン、こんにゃくを加えて炒める
里芋と水を加えて柔らかくなるまで煮る
②[A]を加え、煮汁が少なくなるまで煮て小口切りのネギを散らす

大

根は、ビタミンCや消化酵素が多く含まれる冬野菜です。葉に近い部分は、柔らかな甘みでサラダやマリネに、先の部分は辛みが強いので薬味に、そして中央部分は煮物に適しています。

ワンポイント

大根の葉には、ビタミンAやカルシウムなどが豊富に含まれています。油で炒めたり、みそ汁に入れたりしていろいろな味が楽しめます。

◎問い合わせ

健康課 ☎23-2765

